

こんにちは！

あかちゃん

8月以降に大森山動物園で生まれました



アカカンガルー

8月21日と9月27日にそれぞれ1頭ずつお母さんの袋から姿を見せました。子どもらしく、元気に展示場を走り回っています。カンガルーアイランドをご覧ください。



コモシマーモセット

11月21日に双子が生まれました。2015年は3回の出産があり、6頭の赤ちゃんが仲間入りしたことになります。とてもにぎやかなマーモセット家族です。



コクチョウ

11月28日から30日にかけて4羽のヒナが誕生しました。残念ながら冬の寒さで1羽しか残っていませんが、両親に寄り添い、すくすくと育っています。

このほか、釧路市動物園に購入したチンパンジーのゆみのすけに男の子が生まれたとのうれしい知らせも届いています。

園長あいさつ

園長 小松 守

雪国秋田で春を感じる一つに大森山動物園の開園があります。暖かさが増したお日さまと共に生き物が動き出し、春を待ちわびた人々も浮き浮きして動物園を訪れます。

動物園は言うまでもなく、多様な動物の「いのち」が生きる場所ですが、私はそれだけではなく、たくさんのお客さまという「いのち」が何かを思い、感じるため、動物との出会いを求めて集まる場所だと思います。そして動物を扱い、お客さまをお迎えするスタッフという「いのち」が控える場所でもあります。動物園はいろいろな「いのち」の集合体だと思います。

「動物と語らう森」をテーマに、人、動物、スタッフが心の通い合わせる場を探ってきましたが、昨年、その可能性を広げることを目的に秋田公立美術大学と連携し「大森山 Arts & Zoo」をタイトルに動物園アートギャラリー事業を展開、美大生がいのちを表現した作品制作と動物園展示を実践しました。動物園にアートという新たな感性の「いのち」が加わり、「いのち」の集合体はさらに成長したような気がします。

情緒的感情と知的頭脳がアンバランスになりがちな現代社会は、本能と理性のはざままで人がヒトという動物の延長にあることを忘れてしまいがちな時代のようにも思えます。時には動物が集まる雰囲気の中、動物、人と肩肘張らずにフランクに語らってみてはいかがでしょう。「動物と語らう森」の大森山動物園を今シーズンもどうぞよろしくお願いたします。

ヨロシクね！ 仲間入りしました



カリフォルニアアシカ

12月1日に愛媛県立とべ動物園からカリフォルニアアシカのアイラが嫁入りました。10ヶ月近く独身生活を満喫したマヤですが、お転婆なアイラに少々戸惑い気味のようです。早く赤ちゃんが産まれるといいですね。



アメリカビーバー

10月19日に東武動物公園からやって来ました。やって来た時は生後半年もたっていなかったのに、「小さくて可愛い」と思いきや、一丁前に威嚇などもして見せました。春になれば、仲間と一緒にビーバー舎のプールで元気に泳いでいる姿が見られます。

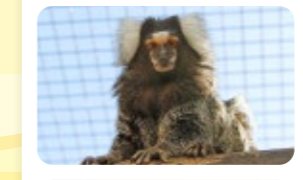
サンショクキムネオオハシ

アイラと同じ日に神戸市須磨海浜水族園からサンショクキムネオオハシのオオハシ君がやって来ました。大森山のコセンちゃんとペアにするため、借り受けたものです。コセンちゃんが地の利を活かしてか、かかあ天下ぶりを発揮しています。オオハシ君頑張れ!!



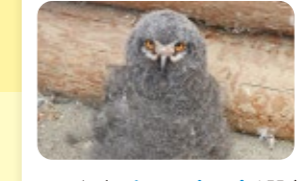
このほか、ヒナイドリ(オス1、メス2)やオスのホンドリスも仲間入りしました。

げんきでね！ 大森山を後にしました



コモシマーモセット

10月19日、コモシマーモセットのススキ君が神戸市立王子動物園に嫁入りしました。大森山のイツキババのように立派なお父さんになってもらいたいものです。

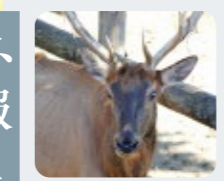


シロフクロウ、コクチョウ

10月20日、今年孵化したシロフクロウ1羽とコクチョウのポテトがピーパーとリスとの交換で東武動物公園に旅立ちました。(写真はシロフクロウのヒナ)

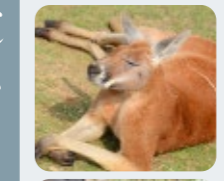
このほか、シロフクロウ1羽とチョウゲンボウ1羽が盛岡市動物公園に旅立ちました。

訃報
忘れないよ...



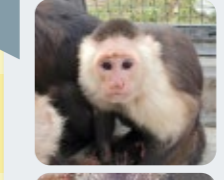
ワピチ オス

大きくて立派な角がトレードマークの個体でした。2004年に旭川市旭山動物園からやって来て、アソヴェの森の主のような存在で、多くのかたに愛されました。



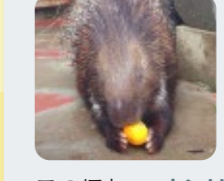
アカカンガルー トマノスケ/オス

大森山生まれで、群れでは立派なお父さんですが、色っぽい横座りなどアンバランスさが印象的でした。下顎を腫らすことがよくあり治療していましたが、最後は肺炎で亡くなりました。5歳でした。



ノジロオマキザル 陽太/オス

2011年6月に大森山で生まれました。お腹が膨らんできたため、8月に検査をしたところ、腫瘍があり、手が施せない状態でした。余生を家族と過ごさせるため群れに戻した2日後の9月27日に亡くなりました。早すぎる死です。



アフリカタテガミヤマアラシ リュウ/オス

2000年に奥さんのワヤとやって来ました。これまでに10頭の子どもが育ち、子どもたちは全国の動物園に旅立っています。子どもとのけんかにも容赦なく、強いお父さんでした。16歳の老成でした。

このほか、ニホンリス、トナカイ、フンボルトペンギン、インドクジャク、ブロンズキ、ホオアカトキ、ニホンザルが亡くなりました。

飼育動物数		
類	種数	点数
哺乳類	51種	323点
鳥類	39種	190点
は虫類	9種	27点
両生類	2種	3点
魚類	3種	24点
無脊椎動物	1種	16点
計	105種	583点